2027年３月期第２四半期　アナリスト・マスメディア向け決算説明会　質疑応答

【第２四半期決算内容について】
Q.第２四半期の一過性の収益について教えてください。
A.シート事業で約19億円の開発費の回収売上を計上しております。背景として、お客様からの開発費の支払い方法が変更になったためです。

【ＤＤＳ事業について】
Q．ＤＤＳ全体の営業利益から試作品を除いた場合の今年度の営業利益率を教えてください。
A．27年３月期の試作を除いた営業利益率の想定は約23.5%です。為替影響も加わり、20%以上の営業利益率を達成できております。引続き営業利益率20%以上を維持してまいります。

Q.上期実績では価格協力がマイナス 10 億円となっています。通期では価格協力はゼロとなっています。これは、売価アップが進むという事でしょうか？
A．上期では前期に対しては価格の下落はありましたが、９月までに実施した売価改善により、下期にかけて効果が出てきて、通期では上期の価格の下落を相殺できる見込みです。価格交渉については、お客様としっかり相談をしながら進めております。

Q.下期計画の営業利益率が、上期実績に比べて低下する理由を教えて下さい。
A.上期は比較的利益率の高い試作品の受注が多くありました。また、為替レート（対ＵＳ＄）が、上期は160円前後で推移してきたことに対し、下期は150円に設定していることも影響しています。

Q.現在の設備稼働率について教えて下さい。
A.現状の設備稼働率は約９割と高水準で推移しています。現在、更なる需要増に向けた能力増強を進めております。

Q．ＨＤＤ１台あたりのサスペンション本数が、今後22枚まで増える事をご説明頂きました。22枚になるまでの時間軸、またディスク枚数が増える事による機会について教えて下さい。
A.今後３～５年以内で実現するのではないかと考えております。ディスク枚数の増加はシェア拡大の機会と捉えております。お客様との新商品開発に注力してまいります。

【設備投資について】
Q.27年３月期に約600億円の設備投資を見込まれていますが、来期以降の投資水準を教えてください。
A.現時点で具体的な投資金額は未定です。引続き成長事業への投資を進めてまいります。

【株主還元について】

Q.27 年３月期の配当性向は 34%の予想となっており、期首予想の配当性向 31%から上昇しています。株主還元方針に変化があったのでしょうか。

Ａ．株主還元は当社にとって極めて重要な事項と認識しております。

【中国ビジネスについて】

Q.中国の懸架ばね工場を清算すると公表されましたが、今後の中国ビジネスの方針について教えて下さい。

Ａ.今後、中国市場において、懸架ばね事業の継続の見込みが立たないと判断したため、選択と集中の観点から撤退を決定しました。精密ばね事業については事業を継続してまいります。

【米国政権交代のビジネス影響について】

Q.米国中間選挙による事業への影響について教えてください。

Ａ.現時点で大きな変化は見込んでおりません。

【自動車事業について】

Q.懸架ばねとシート事業について、事業全体でどの様な役割・位置づけと捉えていますか？また、今後どの様に収益性を高めていく方針でしょうか？

Ａ.自動車事業は相対的に安定した需要が見込まれます。自動車事業を基盤に、成長事業を伸ばしていきたいと考えております。また、自動車事業で培った*ＱＣＤＤや信頼が、当社の財産となっています。自動車事業の営業利益率は５％を目指して進めてまいります。

*ＱＣＤＤ：Quality（品質）・Cost（コスト）・Delivery（納期）・Development（開発力）

以上